



好学愛知 自律敬愛 質実剛健

# 鶴鳥イ言

鹿児島県立鶴丸高等学校

〒890-8502 鹿児島市薬師二丁目1番1号

TEL 099-251-7387 FAX 099-255-3433

http://www.edu.pref.kagoshima.jp/sh/Tsurumaru/top.html

## タイとYシャツと私 地歴公民科 高木俊二

九年前の春、私は焦っていた。鶴丸高校への転勤が決まって以降、周囲からの叱咤激励が耳に痛かった。鶴丸高校にふさわしい教科指導ができるか？という面でも不安はあった。一〇%くらい。それ以上に私を動揺させた情報。それは「鶴丸高校はドレスコードが厳しい。白いシャツ一択。」といった類のもの。「郷に入っては郷に従え」という。私は新鮮な気持ちでYシャツを数枚購入し、おそらくはしばらく出番がないであろう派手めのネクタイを封印した。

私がネクタイを着けるようになったのは一八歳の春。アルバイトで学習塾の講師を始めたのはいいが、唯一のドレスコード「ネクタイ着用」がたまたま嫌だった。首が締めまり息苦しい。ラーメンに浸して汚したこと数回。何より実用性が皆無。しぶしぶ父のお下がりのネクタイと付き合っていた私の価値観が大きく変わったのがその年の夏、貧乏旅行で訪れた香港のナイトマーケットだった。決してキレイとは言えない露店に並べられた夥しい数のネクタイ。見たことのない絵柄の数々に心奪われた。おなじみのキャラクターがちよっぴり不細工に改変され堂々と用いられているところに、面白さどこの土地の勢いを感じた。しかも安い。一本三〇〇香港ドル（一香港ドルは当時二〇円弱）。気に入ったものを手に取り、全部で十本ちよっと購入を決意したが、たどたどしい英語で値切る姿がウケたらしく、店主がまとめて二百香港ドルにしてくれた。一本当たり三百円くらい。安物だが、ここから「今日身に着けるネクタイを選ぶ」楽しみがはじまった。

派手なネクタイに真っ白のYシャツ。なんだかなあ。浮いちゃうなあ。次第に私はネクタイとカラーシャツとの組み合わせを楽しむことを覚えた。色相など踏まえていないし、コーデというシャレたものではなく、ただその日の気分。

分。私の生まれ持った感覚も災いし、タイだけでなく全身が派手に……。だが、その中で感じた。周囲から注目されると変な行動でできないな。かえって自分を律することに生かせるかも、と。ここから「エセ婆娑羅」な人生観が確立した。こう見えて私は人見知りである。新しい人間関係を築くのがあまり得意でない。「そのネクタイ、スゴいね」そう語りかけてくれる一言で、今までどれだけ救われてきたことか。オーストラリアに行ったとき、現地で購入したオーストラリアの国旗柄のネクタイを身に付けていた。ネクタイをきっかけに仲良く話ることができたオージーの教員から、オーストラリアにおけるカラーズの現状をレクチャーしてもらった。ここからネクタイの「コミュニケーションツール」としての可能性を意識した。

鶴丸高校においても「授業の内容とリンクさせている」という大義名分を用いた。ネクタイの選択幅を徐々に広げていった。追い風となったのが放送部のR君。私のネクタイを扱ったアナウンス原稿で、九州大会に勝ち上がる。その後彼はラジオ番組に出演し、原稿とともに私のネクタイを県下一円に発信してくれた。ここから私のネクタイとカラーシャツは市民権を勝ち取ることでできた（と、少なくとも私は思っている）。

と、今から一千万年ほど前のフリカ。樹上で生活するたぐさんのサルがいた。気候の変動で植生が変わり、食料とする木の実が激減。このままの生活が維持できない状況で、二通りの行動を示す集団に分かれた。一つは樹上で我慢する者たち。もう一つは木から降り、未知の世界である草原で暮らすことを選んだ者たち。草原にはサルの天敵が多かった。おそろしくその集団は多くの仲間たちを失ったのである。しかし彼らは樹上に戻ることをせず、自分の足で自らの道を歩み、自分の手で運命を切り開いていった。今までの樹上の生活を放棄し、変化をポジティブに受容するか否か、この選択こそがサルと人類の分かれ目となる瞬間であった。俗にいう

「直立二足歩行」は逆境に立ち向かう勇気の証であり、その勇気は我々人類共通のセンスなのである。あの時に購入したYシャツは封を切れないまま、九年前から時間が止まっている。ネクタイは年間十本弱ずつ、順調に増殖中。時々反省することがある。状況に対してポジティブでいられたか。これから歩む道筋で、心がけていきたいことがある。状況に対して常にポジティブでありたい。

ニューヨーク。税関の人の英語が聞き取れず、スタバのお姉さんには冷たくあしらわれ、パデイの質問に見当違いな返答をした。ここまでくると失敗を恐れる感情も湧かなくなり、なりふりかまわず大げさなくらいのジュエチャーと知りうる限りの単語を駆使して相手に自分を伝えようとする自分がいた。ニューヨークには世界中から様々な国の人が集まり、働き、学んでいる。様々な文化が混ざり合うニューヨークでは失敗は怖くない。失敗を笑われたりしない。失敗を恐れてチャレンジをしないことのほうが呆れられる。懸命に伝えよう、学ぼうとする姿勢を見せれば、相手もそれに応えようとしてくれるので、僕も必死で自己表現をした十日間だった。元々、僕がこの研修を志望したのは消極的に自己主張が苦手な自分を変えたいと思っただけだが、その点では僕は確実に成長できたと思う。この経験を、これからは周りに伝えていくのが僕の役目だと思っている。

(一一R 鮫島 元)

本校同窓会の協力をいただき、昨年度に引き続き、ニューヨーク市で短期海外研修が三月三日から三月十二日までの十日間の日程で実施されました。今回参加した一年生二名、二年生八名の研修生の中から二名のレポートを紹介します。

「創立百二十五周年記念事業 創立百二十五周年記念事業」



国連 (UN) 本部前にて



鶴丸高校同窓生との夕食会



3月1日に厳粛に行われた第70回卒業式の様子

世界を生きる上で必要なものは言語。自信となるものは経験。欲しいものは外に発信する価値のある自分らしさ。そんなことを考える十日間だった。異国の地で経験する多くの「初めて」や、出来ないこと、分からないことに立ち向かうたくましさ。多様性を礼節をもって受け入れ、広い視野で皆の為に物事を考えられる優しさや賢明さ。言葉での意思疎通が難しくても心を通わすことのできる明るさや、誰をも愛し誰からも愛される振る舞いや態度。それらは私が十日間でその大切さに気付いたことだ。結局どこでも求められるのは自己の豊かさ、魅力、表現力だと思ふ。今回の貴重な体験に感謝し、これらの気付きをしっかりと身につけていきたい。そして言語を磨き、経験を積み、常に変容する世界になりなやか生きることで国際人になりたい。

(二四R 川津 はな)

4月の行事予定	
4月	
1月	学年始休業日
2火	
3水	
4木	
5金	
6土	
7日	
8月	新任式 前期始業式 中掃除 復習考査(2・3年) 写真撮影(2・3年)
9火	第73回入学式
10水	対面式 新入生テスト 復習考査(2・3年) 1年オリエンテーション(1) 1年写真撮影 学校安全の日
11木	1年オリエンテーション(2) 50分6限授業 尿検査(1次)
12金	1年オリ(3) 部活動紹介 甲鶴戦合同LHR 尿検査(1次)
13土	
14日	
15月	生徒指導特設LHR① 体育保健合同委員会
16火	甲南鶴丸スポーツ交歓会
17水	健康診断(2年) 午前のみ50分授業
18木	健康診断(3年) 午前のみ50分授業 復習考査・新入生テスト成績締切
19金	創立記念日 創立記念式典・講演
20土	
21日	
22月	学年朝会 保健委員会 いじめ問題を考える講演 スクールカウンセリング 胸部検診(1年,職員)
23火	健康診断(1年) 尿検査(2次) 午前のみ50分授業
24水	尿検査(2次)
25木	PTA評議員会 身体測定 実力考査時間割発表
26金	一日遠足
27土	
28日	
29月	昭和の日
30日	
自転車車体検査 1年生ストレスマネジメント	



3月1日に厳粛に行われた第70回卒業式の様子